第５回佐倉教育ビジョン策定懇話会　会議録

日　　時　令和元年 10 月 21 日(木)　17:00 ～ 19:00
場　　所　議会棟2階第4委員会室
出 席 者
委　　員　〔敬称略・名簿順〕
　　大野　尊史　　佐藤　和浩　　腰地　みなこ　　吉村　真理子
　　大塚　　均　　髙橋　正彦　　根本　裕代　　吉見　典子
教育次長　花島　英雄
事 務 局　教育総務課　　課長　川島　淳一　　主査　今川　孝夫
　　主査補　林　真理子　　主任主事　平田　泰也
傍 聴 者　2名

(1)佐倉教育ビジョンの事務局案について
事務局より、配布資料に基づき説明した。
《質問および意見》
（委員）基本理念、めざすべき佐倉市民像から施策の流れまでがすっきりしたと思う。

（委員）この計画が教育現場にどのように伝わり、子どもたちに伝わるのかが大事である。
（委員）各学校は、教育ビジョンや学習指導要領に基づいて教育目標を作り、学力や実態に合わせた指導法を具体的に提示して、実践していく。
（委員）教育ビジョン推進計画で定められた具体的な施策の進捗状況については、教育ビジョン推進調整会議で成果、課題を把握し、改善している。学校の方で理解して施策を行うと同時に、教育委員会でも進捗状況を情報収集してフィードバックしている。佐倉学は、そのような取組により浸透した。また、校長会、教頭会等でも学校に説明している。学校の先生方は、教育ビジョンの趣旨を理解してその場で判断できることが大切だと思う。
（事務局）教育ビジョン推進計画で施策を実施するときは、点検評価を実施し、報告書を作成して次年度以降の取り組みに活かしている。

（委員）PDCA サイクルを繰り返していくことで教育ビジョンが達成されると思う。基本理念の「輝き」が持続できるよう続けてほしい。

（委員）先生方はすごく忙しいなかで、これらの施策を実行するのは大変だと思う。すべて実行するのは難しいが、目標に向かって少しずつやってほしい。

（事務局）施策は教育委員会が行うものがほとんどであるが、教育ミニ集会等一部学校が実施するものや、学校と教育委員会で協働して行うものもある。可能な範囲でご協力いただきながら、一体となって進めていきたい。

（委員）施策をどのように具現化していくのか。
（事務局）今後策定する教育ビジョン推進計画で教育ビジョン実現のため具体的な取り組みをつなげていけるかが大事だと思うので、頂いたご意見等踏まえながら反映させていきたい。

（委員）資料９ページのアンケートの望ましい市民像のアンケート結果では、「他人に対する思いやりのある市民」が最も多いことがわかるが、児童生徒に対する問「将来どんな大人になることが大切だと思いますか」の回答結果がないため、ここで入れてほしい。この回答結果は、「他人に対する思いやりのある人」が最も多い。大人も思いやりのある街になってほしいし、子供たちも思いやりのある大人になりたいと思っていることがわかる。したがって、「思いやり」はキーワードとして最後まで位置付けてほしい。
（委員）「思いやり」について、事務局では「豊かな心」という表現を使用していて、広がりがでたと思う。
（事務局）基本理念の説明文のところでは、「思いやり」という言葉は入っていないので、キーワードとして書き加えたいと思う。

（委員）「輝き」の意味は、一人一人の子供が良い学校に進学し、良い企業に就職する、ということではない。陽のあたらない人もその人らしく輝くということを、説明のところに入れてほしい。
（委員）「輝き」は、成功のようなことではなく、自己実現のような意味である。基本理念からの統一感があって良いと思った。

（委員）１８ページの新学習指導要領のキーワードである「主体的、対話的で深い学び」について、１８ページの文面では、「主体的」の記載はあるが、「対話的」の文言についての記載がない。「対話的な学び」は、子どもが将来社会に出た時に役に立つ、新しい教育の方向性として国が示している。コミュニケーション能力、コラボレーション能力は将来にわたる有益なスキルで、従来の知識、技能に加えて、協力、協働してやり抜くことが必要とされる。コミュニケーションや対話的な学びという文言を加えることが難しければ、「学びあい」等の文言でも入れられると、先生方の意識が変わってくると思う。教育委員会としての目指す方向性を示していくことが重要だと思う。
（事務局）「対話的な学び」は、思いやり等のコミュニケーションを高める取り組みにつながる部分になると思うので、念頭におけるよう文言の見直しを図りたい。
（委員）１８ページの記述では、①②は学力の三要素に当てはまるので、それに並ぶ

のであれば、③についても学力の三要素に沿って書いた方が教育現場は受け入れやすいと思う。

（委員）思いやりを持っているが、思いやりを持った行動をすることは難しい。また、人の自立を妨げてはいけないし、仕事の邪魔をしてはいけない。ちょっとでもその場で行動できるような人が増えればよいと思う。
（委員）学校では、いじめ問題が取り上げられてから、心の教育の必要性が求められるようになった。私の主観だが、思いやりのある子は育ってきていると思う。心の教育や道徳教育の成果だと思う。地域の教育力、家庭の教育力を含めて思いやりを育てていくことが大事である。

（委員）以前の市民意識調査で感じたことだが、いろんな行事に参加する市民は、人との距離が近く、人の気持ちがわかる。公民館行事で抜けている世代（青年期～中年期）をどうやって地域社会に取り組んでいくのかが課題である。自分ができることを地域社会で行うことが教育ビジョンの目指すところにつながると思う。
（委員）佐倉は市民大学が充実しているので、地域活動に抜けている世代を受講生等が当事者意識をもってつなげていけたらと思う。

（2）今後の予定について
頂いた意見を基に事務局で修正、確認し、最終決定機関の教育委員会会議で協議案の提出、パブリックコメントを実施する予定である。２月の教育委員会会議での議決を目指している。

（3）その他
教育ビジョン策定懇話会はこれで終了となる。
現在の提示している素案は確定的なものではなく、今後変更となる部分もあるので、あらかじめご了承いただきたい。
見直し等があった場合、参考までに委員の皆様にお知らせしたい。